

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです
何でもよいから一番を創りなさい。

“一番と二番の差は、二番と一〇〇番の差よりも大きい”船井先生の言葉のなかでも、もっとも素晴らしい言葉の一つだと思います。「何でもよいから、一番を創ってごらん。それが自分を知ってもらおうコツだから」研修会の最終日。当時、年に二回の全体研修会が、船井先生主宰で行われていました。

直接コミュニケーションが、一番大切なんだと、先生は口にします。実際、当時五〇歳前後の先生は、朝六時のソフトボールから深夜の飲み会まで、必ず私たちと席を同じにしていました。あるときなど、深酒を過ぎて、ソフトボールのスタート六時に目を覚まして慌ててグラウンドに走ると……、一人ポツンとマウンドに先生が立っていたのです。体操着に着替えて。「おお来たか！じゃ佐藤君、キャッチャーやってくれよ。ウォーミングアップするから。そのうち、みんなくるだろ」意外と力強い球を受けながら、心のなかで頭を下げ続けていました。“直接コミュニケーション。決して妥協せず先頭に立って実践しているんだな”日頃、コンサルティング現場で伝えていること、それを自分で実践する。先生が一代にして人気ブランドとして認知されたのは、有言実行にあったのだと、将来、痛感することになるのですが……。研修会の終わった開放感のなかで、女性コンサルタントに一日にも早くなりたいのです！その近道は何でしょうか？そんな質問を笑顔で受けていました。「どんな分野でもいいよ。一番の分野を創るんだ。一番になれる分野を見つけると言ったほうがいいね」一番と二番の差は、二番と一〇〇番の差より大きいからね。早く見つけるんだよ。そう言って船井先生はいつもの早足で去っていったのです。日本で一番高い山は？この質問に答えられない人はいないはずですが、もちろん、富士山です。では、二番目に高い山は？どうでしょうか？この質問は難しいでしょうか？よほどの山好きか、地元の人しか答えられないかもしれません。標高差わずかに二七〇メートルの北岳です。正解者は一〇〇人中、五～六人でしょうか？では、日本で一番広い湖は？これも簡単です。もちろん琵琶湖です。では二番目は？霞ヶ浦と即答できる人も少ないはずですが、これが、一番と二番の差です。では、大きさ、広さで、一番にならなければ、知名度は広まらないのでしょうか？これでは、力不足の身にとって、とても遠い道筋になってしまいそうです。「いや、いまの自分で一番になれる要素を見つければいいよ。小さくても何かで一番をもてばいいんだ」船井先生の言葉は、いつも突破口を示してくれました。リーダーとは、道筋をその人の力に合わせて示してくれる人間であるべきなのだと思います。「そりゃ、面積でいえば琵琶湖が一番。それに勝とうとしても、後発では無理だ。しかし、深度日本一、透明度日本一となれば、どうだろうか？」得意気に語っている自分があります。深度日本一は田沢湖、透明度日本一は霧の摩周湖。小さくても何かで一番をもてば、知名度も上がる。観光客もワザワザきてくれる。

勉強も、同じことのようにです。すべての分野で一番は、秀才でなければ不可能です。しかし、理科のなかで蛙の生態でもいい。社会のなかで、明治の歴史でもいい。狭い範囲で、これは自分が一番だと思える分野をつくってあげれば成績は上がる。

ある受験予備校の名物先生が教えてくれたことです。自らの自信が、自らを助けるということでしょうか？小さくても何かで一番。そういえば、その女性、菓子業界の販売員教育の第一人者になり、いまも業界の第一人者として活躍しているようです。

日本で 2 番目に高い山は何処ですか？

()

日本で 2 番目に大きい湖は何処ですか？

()